

# 校庭の落ち葉で腐葉土をつくろう

## ■プログラムの概要

ねらい	多量の落ち葉はごみではなく資源として利用できることに気づく		
キーワード	ごみ・資源、身近な自然		
対象	小学5年～一般		
時間	10か月（秋から春）	実施場所	屋外（校庭）
使用するもの	落ち葉を積むための枠（コンクリートパネル、廃材、間伐材、竹などで作る） ビニールシート・落ち葉・米ぬか		
全体の流れ	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 導入 校庭の落ち葉の様子や、土壌動物や菌などを観察し、それらの役目について考える。</li><li>2. 作業 枠を作って落ち葉を積み上げ、発酵を促進させる処置を行う。</li><li>3. 手入れ、観察 ときどき乾燥していないか、虫がいるかなど観察する。 1か月に一度（無理であれば3か月に一度でも）繰り返す。</li><li>4. 活用 できた腐葉土は畑や花壇に利用する。</li></ol>		

## ■進め方

時間	学習内容	指導上の留意点
10～ 15分	校庭の落ち葉が積み重なった場所で、落ち葉をめくっていき、落ち葉が少しずつ細かくなって土になっているのを観察する。 途中で見つけた土壌動物や菌などを観察し、それらの役目について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>土の中ではどのように落ち葉が変化していくのかを観察する。</li> <li>越冬する昆虫の幼虫や、菌類、土壌動物が関係を持ちながら生活していることに目を向ける。</li> </ul>
30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち葉を積む。</li> <li>①落ち葉を積むための枠を用意する。 (一年ごとに交互に使うため、2か所必要)</li> <li>②晩秋に、落ち葉を枠内に平らに30cmくらい積んで踏み固め、又力を撒き、水をかけて湿らせる。この作業を繰り返す、枠いっぱいには積む。最後にたっぷり水をかけてシートをかぶせておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の協力によってこの活動ができることに感謝の気持ちを持たせる。</li> <li>低学年の児童がシートの上で遊んだりしないように、看板を立てて、注意を促す。</li> </ul> <p>*より良い状態の腐葉土になるには3年程かかるため、スペースの確保が可能であれば、落ち葉を積む場所は3か所以上が望ましい。</p>
以下 1ヶ月に 1回程度	ときどき乾燥していないか、虫がいるかなど観察する。	腐葉土が促進されるための条件を観察させる。
	1か月に一度(無理であれば3か月に一度でも)切り返す。	地道な作業を重ねる労働を楽しんでやれるようにする。
	できた腐葉土は畑や花壇に利用する。	プランター栽培での植え付けの際に、腐葉土の混入割合を変えて、植物の生育状況の違いについて考える。

## ■使用するもの

物品名	数量	備考
落ち葉を積むための枠	適宜	コンクリートパネル
		廃材
		間伐材
		竹など
ビニールシート	適宜	落ち葉の発酵を促進させるため
落ち葉	適宜	
米ぬか	適宜	落ち葉の発酵を促進させるため

## ■実施にあたって留意する点

- 必ずしも全ての学校が腐葉土を作れるだけの広さの校庭があるわけではない。  
その場合、
  - コンポストなどの簡易な容器を使用する。
  - 近くの学校で作っている学校があれば、見学に行ったりする。という、バリエーションを設ける。
- 学校の用務員さんに、あらかじめ落ち葉を使うことを伝え、協力をお願いする。  
(落ち葉を廃棄されないように)